

“記憶” と生きる

土井敏邦監督 最新作

第一部 分かち合いの家

第二部 姜徳景（カン・ドクキョン）

彼女たちは確かに存在した…



©安世鴻

「慰安婦」とよばれたハルモニたちは、
それぞれの話——とくにその細部（ディテール）——を
聴けば聴くほど、歴史の暗部におきざりにされた絶望と、
にもかかわらず、絶望のなかで維持した
心の奥行きの果てしない深さと豊穣を感じさせずにはおきません

——辺見 康（作家）

監督・撮影・編集：土井敏邦 編集協力：森内康博 整音：藤口諒太 配給：きろくびと 2015年 / 日本 / 215分(124分+91分) www.doi-toshikuni.net/j/kioku

アジア太平洋戦争下、「慰安婦」にされた朝鮮人女性たちの消せない“記憶”を記録したドキュメンタリー



「この胸の痛みは、誰にもわからない——」

深く刻まれた傷を抱え、壮絶な戦後の半生を送った

6人のハルモニのありのままの声と日常 おばあさん

元「慰安婦」たちが肩を寄せ合って暮らす韓国の「ナヌム（分かち合い）の家」。1994年12月から2年にわたって日本人ジャーナリストが6人のハルモニたちの生活と声をカメラで記録した。元「慰安婦」という共通の体験以外、その境遇や歩んできた道はまったく異なるハルモニたち。支えあい、時には激しくぶつかり合う。そんな生活の中で彼女たちは消せない過去の記憶と、抑えられない感情を日本人の記者にぶつけ、吐露する。あれから20年近く経った今、あのハルモニたちはもうこの世にいない。

残されたのは、彼女たちの声と姿を記録した映像だった…。



『沈黙を破る』(2009)、
『異国に生きる 日本の中のビルマ人』(2013)で受賞の
土井敏邦監督の新作ドキュメンタリー

2009年度キネマ旬報文化映画ベスト・テン第1位に輝いた『沈黙を破る』、2013年度同ベスト・テン第3位で文化庁映画賞文化記録映画優秀賞を受賞した『異国に生きる 日本の中のビルマ人』の土井敏邦監督が、戦後70年の2015年、あらためて「慰安婦」問題の“記憶”を辿るために完成した注目の最新作。3時間半を超えるこのドキュメンタリー映画は、「問題の解説」や「史実の検証」を目指したものではない。被害女性たちの証言をありのままに記録した映像作品である。

第一部 分かち合いの家 [124分]

「ナヌムの家」で暮らすハルモニたち。過去を忘れるための酒が手放せず荒む女性、息子に過去を知られ悩み苦んだ女性、戦後、結婚もできず孤独に生きてきた女性…。彼女たちの日常生活とともに、「慰安婦」の記憶や戦後の波乱の半生を語る5人の声を丹念に記録。

第二部 姜徳景（カン・ドクキョン）[91分]

ナヌムの家の住人で最年少の姜徳景は、「女子挺身隊」として日本に渡るが、脱走したことでの「慰安婦」にされる。望まない子を宿し、戦後帰国した彼女の波乱の半生。その体験と心情を姜徳景は絵で表現した。やがて肺がん末期と宣告される。彼女が死を迎えるまでの2年間を記録。



“記憶” と 生きる

監督・撮影・編集：土井敏邦 編集協力：森内康博 整音：藤口諒太 写真提供：安世鴻（アン・セホン） 宣伝美術：市川桂 配給：きろくびと 2015年 / 日本 / 215分
www.doi-toshikuni.net/j/kioku

《戦争と平和》連続上映会 第四弾！

2016年 2月 21日(日)

第1部 14:00~ 第2部 16:30~

会場：**小金井市公民館本館 4F 視聴覚室**
(小金井市福祉会館内／小金井市中町 4-15-14)

※上映後に **土井敏邦監督のトーク** 予定！

上映協力費：**1,500円** (1部か2部のみは**1,000円**)

問合せ：**042-380-8270** info@yashihofilms.com

主催：キムーンフィルム・やしほ映画社

ミストラルジャパン・ONE'S EYES FILM

私たち「こがねいピースアクション 2015」に賛同しています。

